

終業式 校長講話より



「+」 たすけあう

友だちが困っているときに、もしかすると家族や先生が困っているときもあったかも知れません。そんなときに手をさしのべることができる皆さんの姿に、何回も出会った一学期でした。自分はどうか。どんなことができたかを思いおこしてみましょう。

「-」 ひきうける

学校生活にはいろんな役割を、誰かが引き受けなくてはならない場面があります。「誰かがやらなくてはならないんだ。自分にできるか自信はもてないけれど思い切ってやってみよう」と、すすんでできたことがきっとあるはずです。

「×」 声をかける

お互いにあいさつを声をかけ合うこと、それだけではなく、「だいじょうぶ」とか、「こまっているんじゃない」などのふわふわ言葉をかけてあげることができていましたね。わたし自身もたくさん声をかけてもらって元気をいっぱいもらいました。誰かに元気になってもらうことができましたか。

「÷」 わけあう

給食のおかわりを喧嘩せずに分け合うこと。もちろんそれも大切ですが、ここで言っていることはちょっとちがう気がします。たのしいことやうまくいったことはもちろんですが、難しいことや困ったことも、わけあって「自分

4月4日の一学期始業式から数えて今日まで、73日間の一学期が今日で終わります。

一学期の皆さんの姿をみていて思い出したテレビのCMがあるので、ここで紹介します。それは、「やさしいでしょ おもやり算」という題がついています。

「+」は、たすけあう

「-」は、ひきうける

「×」は、声をかける

そして、

「÷」は、わけあう

それは、人を笑顔にする算数

おもいやり算

ほら、やさしいでしょ

のこと」として考えられることの大切さだと思います。きっと皆さんだから、こんなふうにして苦しいことも分け合って乗り越えることができたことがいくつもあったよね。

そして、おわりにある

「それは、人を笑顔にする算数、おもいやり算」

「ほら、やさしいでしょ」

という言葉がまた、心がぼかぼかしてきてすてきななあ、と思います。



さて、今週の月曜日に中庭で遊んでいて、「夏休み、楽しみなんだあ」と心からうれしそうに話してくれる友だちがいました。その気持ち、よくわかります。でも、28日もの長い休みで、皆さんに学校で会えないと思うと、わたしはちょっぴりさみしい気持ちになるのです。

夏休みあけに、元気で全員がそろって二学期をスタートできるように、みなさんに家で守ってほしいことを三つ話します。

1 事故を起こさない

交通事故：飛び出し・よく見て横断・ヘルメット 線路で遊ばない

水の事故：子どもだけで川遊びをしない

◎熱中症に注意：出かけるとき、ぼうし・すいとう 室内でも水分補給

2 長い休みしかできないことをする

地区の行事にすすんで参加する 自由研究に時間をかける

本をたくさん読む

3 あいさつをきちんとする

お家の人に、近所の人にすすんで、明るい声であいさつ

休みあけの8月22日、みなさん全員と元気にあえることを楽しみにしています。みなさん、よい夏休みにしましょう。

お家の皆様 一学期 ありがとうございました。

子どもさんに大きな病気やけがもなく、この日を迎えることができたことはお家の皆様のご支援ご協力のたまものです。心より御礼申し上げます。

子どもさんの一学期のがんばりや育ちを、どうかいっぱい認めてほめてあげてください。元気をいっぱいのために二学期のスタートを迎えることができますように、夏休み中の生活をよろしくお願いいたします。

休み明け、子どもさんの元気な笑顔を待っています！